

平成24年度

年 報

平成25年3月

富山県自然博物館ねいの里

目 次

I	施設の概要	
1	沿革	2
2	設置目的と役割	2
3	施設の概要	3
4	施設の変遷	3
5	指定管理者制度の導入	4
II	利用状況	
1	来館者数	5
2	団体来館者数	5
3	ナチュラリスト活動	5
4	園外普及活動	5
5	実習生の受け入れ	6
6	鳥獣保護センターにおける傷病鳥獣の受け入れ	6
III	県からの委託業務	
1	野生鳥獣共生管理員の配置	6
2	生物多様性保全推進事業	7
3	希少動植物保護増殖事業	7
4	ジュニアナチュラリスト活動支援事業	7
5	生物多様性保全推進アドバイザー事業	7
6	自然博物館「いこいの村富山移管施設」維持管理整備事業	8
IV	自然塾の会の活動	
1	組織	8
2	活動内容	8
V	広報活動	
1	ホームページの刷新	8
2	テレビ、ラジオへの協力・出演	9

I. 施設の概要

1 沿革

昭和46年	5月	県民公園構想発表
昭和49年	6月	自然博物館基礎調査
昭和54年	8月	自然博物館基本設計
昭和55年	7月	自然博物館整備工事施工
昭和56年	6月2日	自然博物館 開園
昭和59年	10月	富山県鳥獣保護センター併設
昭和63年	10月	展示館の展示替えオープン
平成元年	10月	キジ野生化訓練場新設
平成10年	8月	イヌワシモニタリングシステム(南砺市小瀬)稼働
平成18年	4月	指定管理者制度導入
平成19年	3月	展示館の展示替えオープン(人と生き物との共生)
平成21年	4月	いこいの村移管施設(4.2ha)管理受託

2 設置目的と役割

人間が自然といかに付き合っていくらよいかと言う大きな問題に対するアプローチとして「身近な自然の再発見」をテーマに、県民の誰もが自然に親しみ、学べる場を設け、展示や野外の自然解説を通して、自然への興味、関心を高め、自然を愛し守り育てることを目的としている。

【基本となるテーマと理念】

- (1) 自然に親しむ
- (2) 自然に学ぶ
- (3) 自然を育てる

上記のテーマと理念の実現を図るために環境教育を実施する役割を持っている。なお、環境教育の目標は次の5つを考えている。

- (1) 自然に興味を持つ人を育てる。(自然への親しみ、自然への興味を養う)
- (2) 自然を理解できる人を育てる。(自然仕組を学び科学的に見る目を養う)
- (3) 自然を愛する人を育てる。(自然や環境に対する感受性と愛情を養う)
- (4) 自然を守る人を育てる。(自然の中のマナーと環境に対する論理を養う)
- (5) 指導者を育てる。(自然解説・環境教育の理念と技術を養う)

この教育目標を達成させるための活動の理念として、実物を通じた体験・生態的なものの見方・環境の多面的な見方・自然と人間の生活との関連についての見方等である。

また、近年、希少野生動植物の絶滅の危惧、生物多様性保全の重要性、ツキノワグマやイノシシを始めとする人との軋轢が増加してきている野生動物との関係など、野生生物に

関する新たな課題が発生してきており、これらの諸問題に対応する必要にも迫られている。

3 施設の概要

1) 自然博物館センター

- (1) 建物の構造 鉄筋コンクリート造 2階建て
- (2) 建物面積 延床面積 726.54 m²
- (3) 施設内容 1階 展示室、レクチャールーム
2階 展示室、事務室、トイレ、研究資料室
- (4) 関連施設 野外倉庫 プレハブ平屋建て 延床面積 9.93 m²
駐車場 3台、鳥獣野化訓練場

2) 鳥獣保護センター

- (1) 建物の構造 鉄筋コンクリート造 一部鉄筋金網造 1階建て
- (2) 建物面積 112.52 m²
- (3) 施設内容 救護室、飼育室 8室
- (4) 関連施設 焼却施設 金属造

3) フィールド

- (1) 森の生態園 約 138,000 m²
- (2) 水辺の生態園 約 8,500 m²
- (3) 園路 1周約 2km 自然観察路として整備
- (4) 工作物 バッドハウス 1式 木造
水辺の生態園休憩舎 1式 木造

4 施設の変遷

1) 野外学習施設

(1) 生態園の設置

サンショウウオ、モリアオガエル、ハッチョウトンボ、メダカ、テツギョ等の小動物を保護し野外観察の拠点とした生態園の整備を昭和 61 年 4 月から実施し、昭和 63 年度に標識を立て野外活動に利用している。また、昭和 63 年度には捨土場所を植物遷移の観察用生態園として設定し、5 年毎に植生調査をしてその記録を表示している。

(現在は「かたかごの丘」として整備)

また、平成 15 年度からいこいの村富山の水生庭苑整備を受託し、水辺のビオトープとして整備してきている。

(平成 22 年度からは県有地となったため、県から受託)

(2) 野外学習コース

開園時に設定した、しぜん博物コース・野外探検コース・緑のパズルコース等の野外学習コースを平成元年度から平成 3 年度にかけて更新した。なお、更新に当たっては、問題および設置場所の一部を更新した。

2) 第1回展示館の展示更新（昭和63年10月展示替え）

(1) 展示の主な特徴

- イ. 実物を通し体験できる展示及び機器の導入。
- ロ. 季節的に入れ替えができる展示。
- ハ. 展示の対象地域を「ねいの里」フィールドから県内一円に拡大する。

(2) 展示替えにより新設した内容

全方位観察ボックス・立体投影器・私たちの仲間・フィールド玉手箱・海辺の鳥たち・サンショウウオの水槽・2万年前の「ねいの里」(石器)・カモシカの剥製・富山の四季の生き物・クローズアップ

3) 第2回展示館の展示更新（平成19年3月展示替え）

「人と自然との共生」を目指し、クマやサルなど、人との間で軋轢のある動物などはく製や生態についてのパネル展示、被害防除法などを新設した。

また、里山やそこに生息する生き物の紹介、渡り鳥の生態、昆虫標本や鳥のはく製などを一部更新した。

4) キジ野化訓練場の新設（平成元年10月完成）

最近、堤防の草刈がさかんになったことや麦畑が増えたことから、キジの卵が多く持ち込まれ、沢山の雛がかえり鳥獣保護センターの野化訓練室では収容しきれなくなったので野化訓練場を新設した。この野化訓練場は、雑木林を生かし自然に近い環境になっている。

5 指定管理者制度の導入

平成15年6月に地方自治法の一部を改正する法律（平成15年法律第81号）が成立し、「指定管理者制度」が創設された。

この制度は、多様化する住民ニーズに効果的、効率的に対応するために公の施設の管理に民間事業者等のノウハウ等を活用しつつ、住民サービスの向上や経費の節減等を図ることを目的としている。

この制度により、これまで出資法人等に限られていた公の施設の管理を株式会社等の民間事業者やNPO団体等も行うことができるようになった。

富山県では、原則として公募により指定管理者を選定することとし、自然博物館ねいの里も指定管理者制度の対象施設となり、今年度は2回目の指定管理期間の最終年度にあっている。

これまでの指定管理期間は次のとおり。

回	期 間	指定管理者
第1回	平成17年4月1日～平成20年3月31日	財団法人 富山県民福祉公園
第2回	平成20年4月1日～平成24年3月31日	財団法人 富山県民福祉公園

II 利用状況

1 来館者数

(1) 平成 24 年度来館者数

月 内訳	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
大人	826	1,623	1,165	1,032	706	785	1,061	612	326	354	319	625	9,434
子供	480	652	485	459	613	628	620	290	62	80	75	300	4,744
計	1,306	2,275	1,650	1,491	1,319	1,413	1,681	902	388	434	394	925	14,178

(2) 開館以来の来館者数

S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3
28,608	47,356	37,633	46,653	58,585	60,825	55,174	43,211	43,944	35,586	43,450
H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14
42,298	35,524	27,602	26,770	25,873	27,598	23,581	21,260	21,523	20,007	18,449
H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	合計
17,891	18,212	17,383	18,162	17,383	18,173	14,174	14,720	14,947	14,178	958,289

2 団体来館者数

団体内訳	件数	人数
学校など（教育活動）	10件	468人
幼稚園、保育園	14件	840人
一般団体	189件	4,881人
NPO法人等	3件	75人
合計	216件	6,444人

3 ナチュラリスト活動

昭和56年のねいの里開園以来、県のナチュラリスト活動の拠点として、シーズン中の土日祝日にナチュラリストの配置を行っている。

今年度においても、4月28日（土）から11月4日（日）まで、1名または2名のナチュラリストを配置し、展示館とフィールドで活動を行った。

4 園外普及活動

野生動物による人身や農作物被害を防ぐための地域講習会の開催や、地域の野生生物保護活動に対する講師派遣などを行った。

期日	派遣先	派遣者	派遣内容
7月21日	砺波市庄川水記念公園	岡、山田	巣箱作り
7月29日	砺波市秋北地区環境保全委員会	間宮、中田	野生動物との共生
8月12日	氷見市教育委員会	中田、垣地	氷見市トンボ教室
9月23日	伏木富山港海王丸財団	富永	新湊大橋開通記念放鳥
H25. 1月22日	県庁退職者会高岡支部	湯浅顧問	富山県の生き物について
3月9日	とやま環境問題懇話会	富永	富山県における外来植物の侵入とその対策について

5 実習生の受け入れ

社会に学ぶ『14歳の挑戦』事業で、富山市立城山中学校の生徒を受け入れ、園内や展示館の管理作業の体験を行ってもらった。

- 1 受入期間 平成23年9月24日（月）～9月28日（金）
- 2 受入生徒 吉田みなみ、上田弥生（2年生2名）

6 鳥獣保護センターにおける傷病鳥獣の受け入れ

昭和59年の鳥獣保護センター開設以来、県と連携して、搬入された野生鳥獣に関して適正な治療を施し、鳥獣の種類ごとに区画された飼育室でリハビリを行った後、放鳥・放獣を行っています。

平成24年度の救護実績は次のとおり。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H25.1	2	3	計
鳥類	15	30	55	53	24	9	19	16	5	4	5	5	240
獣類	4	3	6	5	1	1	1	2	2	0	2	1	28
計	19	33	61	58	25	10	20	18	7	4	7	6	268

III 県からの委託業務

1 野生鳥獣共管理員の配置

野生鳥獣共管理に関する次の事業を実施するため、県自然保護課及びねいの里に職員を配置した。

- (1) 野生鳥獣と人との共生に関わる専門的助言・指導（レファレンス）
- (2) 野生鳥獣による人身被害、生活環境及び農林行被害防除のための地域講習会の開催
- (3) 野生鳥獣の被害対策（電気柵の設置など）の現地指導
- (4) 有害鳥獣対策協議会づくりの推進
- (5) 野生鳥獣の各種モニタリング調査の実施
- (6) クマの捕獲と放獣に関する現地での市町村支援

(7) リーフレットによる広報の実施などの普及啓発

2 生物多様性保全推進事業

県の野生生物担当と協力して、生物多様性に関する相談（生態やビオトープなど）、問い合わせ対応（レファレンス）、普及啓発・広報、関係団体との意見交換などを行った。

また、生物多様性についての調査活動として、クマ、サルや各種鳥類の生息状況調査、自動撮影装置を使つての哺乳類調査などを行うとともに、ホームページによるツキノワグマ出没状況の情報発信のためのデータ入力を行った。

一方、ねいの里でも入館者に対し人と野生動物との共生をテーマにレクチャーするとともに、ねいの里ホームページでの自然情報等の発信を行った。

3 希少動植物保護増殖事業

自然博物館ねいの里において、一般来館者に対し展示館やフィールドを使つて、希少動植物に関するレクチャーを行った。

また、来館者からの相談（生態やビオトープでの保護増殖など）にも丁寧に対応し、併せてホームページなどの広報媒体を利用して普及啓発、広報なども行った。

なお、希少動植物の普及啓発、広報活動の効果を高めるため、わかりやすい展示品の作成、展示してある野生動植物の管理なども積極的に実施した。

一方、ホクリクサンショウウオを始めとする希少動植物の保護増殖のための調査活動、ビオトープでの保護増殖活動や県内の希少野生動植物に関する情報収集にも努めた。

4 ジュニアナチュラリスト活動支援事業

将来の優れた県ナチュラリストを養成するため、ジュニアナチュラリストに対して、県ナチュラリスト等と連携し、自然観察会及び研修活動への参加の機会を提供し、ジュニアナチュラリストによる自然体験活動を推進した。

具体的には、次の3事業を実施した。

(1) 自然解説活動の体験

県ナチュラリスト等の指導のもとに、自然解説の一部を担当するなど自然解説活動を行った。

(2) 自然観察活動の体験

自然公園等での自然観察会に参加し、自然観察や解説方法についての理解を深め、将来のナチュラリスト活動に役立てた。

(3) 研究活動

ジュニアナチュラリストとして、アサギマダラ調査など研究課題を持ち研究調査活動に取り組み、資質の向上に役立てた。

5 生物多様性保全推進アドバイザー事業

生物多様性保全アドバイザーは、生物多様性保全に関する専門的な知識と豊富な経験を有する人材を自然博物館ねいの里に配置し、生物多様性の普及に関する業務を行うも

ので具体的には次の業務を行った。

- (1) ねいの里におけるレッドリスト掲載種の普及啓発
- (2) 鳥獣救護に関する適切な助言・指導
- (3) ジュニアナチュラリスト等への環境教育活動における指導
- (4) その他、生物多様性の保全を効果的に推進するための助言・指導

6 自然博物館「いこいの村富山移管施設」維持管理整備事業

「いこいの村富山」から移管を受けた水辺の生態園やねいの里専用駐車場などについて、①清掃業務、②草刈り等業務、③除雪業務等を行なった。

IV 自然塾の会の活動

1 組織

ねいの里では、平成18年度より里山での生物多様性保全を目指した活動を中心とした『生き物ふれあい自然塾』を開校した。自然に親しみ・自然に学び・自然を守り育てる活動をとおり、私たちを取り巻く自然環境(生態系)について学ぶ塾での活動や、塾生独自の活動を行うため、自然塾の会が組織されている。

2 活動内容(自然塾の会独自事業のみ)

月日・時間	定例会行事内容
4月7日(土)	ギフチョウと春の自然観察
5月3日(木)	新緑の里山ハイキング
6月16日(土)	竹アンドン作り(ヘイケボタル鑑賞会用の竹あんどん作り)
11月3日(土)	ネイチャーゲームで遊ぼう(紅葉の林でのネイチャーゲーム)
12月1日(土)	クリスマスリース作り(持ち寄った材料でのクリスマスリース作り)
3月10日(日)	総会

V 広報活動

1 ホームページの刷新

従来のホームページを全面的にリニューアルし、わかりやすく検索しやすいページ構成にした。

また、リアルタイムの情報提供を行うため、自然情報ブログやツイッターを導入した。

Webアドレス：<http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

自然情報ブログアドレス：<http://neinosato.blog.fc2.com/>

2 テレビ、ラジオへの協力・出演

年月日	氏名	内容	依頼者	備考
24.4.21	湯浅顧問	イベント「早春の生き物」取材	富山テレビ	録画
24.5.10	丸山 功	愛鳥週間行事「ふれあいの日」音川保育所	NHK	録画
24.5.14, 15,16	富永館長 中田達哉 山田一昭	「なるほど富山」 ねいの里の紹介（館内のようす、ホリクサシヨウ ウ、鳥獣保護センター）	トヤマCityFM	録音
24.5.15	富永館長	スーパータイム「季節の話題」	富山テレビ	収録
24.6.15	富永館長	きときと便り	NHK	収録
24.6.21	富永館長	ヘイケボタル取材	トヤマCityFM	実況
24.7.18	富永館長	黄色いカエル	富山テレビ	収録
24.7.20	富永館長	オオガハス、モリアオガエル取材	KNB	収録
24.7.25		オオガハス取材	富山テレビ	録画
24.9.3	富永館長	元気とやま情報チャンネル	富山テレビ	収録
24.12.15	長谷川覚	オオハクチョウの紹介	上婦負ケーブル	収録
25.1.4	富永館長	春の七草を愛でる	上婦負ケーブル	収録
25.2.21	富永館長	ねいの里の紹介	FMとなみ	録音